

## (2) 固体廃棄物の管理状況

固体廃棄物貯蔵庫での平成 11 年度の放射性固体廃棄物発生量は、ドラム缶換算で約 38,900 本相当であったが、六ヶ所低レベル放射性廃棄物埋設センターへの搬出及び焼却等の減容効果により、累積保管量は前年度に比べ約 13,000 本の増加にとどまっている。これにより、貯蔵設備容量に対する貯蔵割合は、59.3%となった。

蒸気発生器保管庫は加圧水型原子力発電所における蒸気発生器取替及び原子炉容器上部ふた取替により発生した放射性固体廃棄物を保管する専用の保管庫であり、平成 11 年度には、1 発電所で原子炉容器上部ふた取替により保管容器計 73 m<sup>3</sup>が発生した。

使用済燃料プール、サイトバンカ、タンク等には、使用済制御棒、チャンネルボックス、使用済樹脂、シュラウド取替により発生した廃棄物の一部等が保管されている。

固体廃棄物貯蔵庫では放射性固体廃棄物をドラム缶等に封入し保管管理されている。

放射性固体廃棄物ドラム缶換算本数は、200 ドラム缶換本数である。その他の種類の放射性固体廃棄物は、ドラム缶に詰められない大型機材等であり、その発生量及び累積保管量等は 200 ドラム缶換算本数で示した。

発電所内減量とは、焼却及び圧縮減量を合算したものであり、発電所外減量とは、低レベル放射性廃棄物埋設センターへの搬出による減量を示す。

蒸気発生器保管庫の放射性固体廃棄物については、取り外した蒸気発生器の保管基数及び保管容器の容量で示した。

なお、平成 2 年度以降の各年度の固体廃棄物の管理状況を参考資料 5 に、また、平成 4 年度以降の各年度の低レベル放射性廃棄物埋設センターへの搬出量を参考資料 6 に示した。